

平成 26 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談(多気町)会議録

1. 開催日時

平成 26 年 10 月 22 日(水) 13 時 00 分～14 時 00 分

2. 開催場所

元丈の館 会議室 (多気町波多瀬 412)

3. 対談市町名

多気町(多気町長 久保 行央)

4. 対談項目

(1)「アクアイグニス多気」計画に対する支援について

(2)子育て支援策について

(3)バイオマス資源収集に対する支援について

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

皆さん、こんにちは。今日は、お昼の後の時間にもかかわらず、このように皆さんお集まりいただきありがとうございます。それから、久保町長もお時間いただきましてありがとうございます。

この元丈の館で、先ほど、初めてお昼ご飯をいただいて、自分が今まで食べたことのないような薬草をいただいて、熱心に作っていただいたので非常においしかったですし、うどんもシソが練り込んであって非常に健康になったような感じで食べさせていただきました。大変おいしかったです。僕は、ふだん昼飯を 500 キロカロリーに抑えているんですが、一生懸命作っていただいたし大変おいしかったので、ちょっとだけお米は残しましたが全て完食をさせていただいたところです。そういう薬膳、薬草をきっかけにこの地域を活性化していこうというような場所として、これからますます期待をしたいと思えますし、今日もそれに関連したお話があると思っています。

久保町長におかれましては、企業誘致や町の活性化、あとはまごの店などを中心に P R を積極的に取り組んでいただいております。敬意を表したいと思います。ぜひ、これからも県と連携してそういう P R、誘致、共に頑張っていきたいと思えますので、どうぞよろしく願います。

本日は限られた時間ですけど、よろしく願います。

多気町長

改めまして、多気町に来ていただきましてありがとうございます。また、我々の町の町政運営にも本当にご尽力をいただいております、ありがとうございます。

今日は、多気町の元丈の館に来ていただきました。今知事がおっしゃられたように、なぜここに来ていただいたかといいますと、これからの私の政策目標であります「多気町民が健康になっていただきたい」、それにはやはりバランスの良い食事をするというので、医食同源のまちづくりをやっていこうと、今、こんな取組をしております。その中に薬膳料理、薬草、薬膳を活用したということで、その基盤として今ここでやっていただいているのが、この元丈の館の今食べていただいた薬膳料理であります。

ここまで観光バスが入ってこれるようにという私の思いもありましたので、取組をいたしまして、今日は地元の区長さんもおみえになっていますが、地元の皆さんの協力もあり、ここまでの道路が、この7月に完成いたしました。もちろん、県の関係部署の大きな協力もありました。

この元丈の館には、今食べていただいたおいしい薬草、薬膳を使った料理がありまして、動脈硬化に予防のあるユキノシタとか、それからネズミモチは疲労回復によいと、こういった薬草、薬樹というのが約81種類、この向こうで栽培をされております。

そんな中で、今回、今日は特に知事に聞いていただきたいのが、こういう薬膳を活用した事業を行うということで、アクアイグニスと今年1月に開発協定を締結しまして、ここでそういうのを中心的に取り組んでいこうということになりました。この代表である世界的なパティシエの辻口博啓さん、それから世界の料理人であります奥田政行さん、この方々に昨年10月に薬膳関係におきます、多気町の医食同源アドバイザーになっていただきました。

こうすることで、これから知事にお願いしますのは、今からまた申し上げますが、これは多気町だけの事業計画ではありません。中南勢地域の活性化のために、多気町が一生懸命やろうと。そのことが、三重県のほうも考えていただいておりますけども、多気町から南の地域、特に人口減少が大きいところがありますので、雇用の開発にもつながるという思いで今、取組をしております。

今日は、そんなことも含めていろいろ知事にお願いやご協力をお話させていただくと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございます。

(2) 対 談

1 「アクアイグニス多気」計画に対する支援について

多気町長

それでは、先ほどちょっと話をさせていただきましたアクアイグニスの計画につきまして、説明をさせていただきます。

(計画図面を見ながら説明)

全体計画は今、こういう計画内容でありまして、ここにちょっと細かいのでありますけれども、この部分については「食に関すること」をやろうということで、将来、ここでSの交流フェア、高校生レストランの姉妹店のようなものができればということで、ここで薬膳料理をやっていたらこうと今考えております。この中には、今言いました世界のパティシエの辻口さんや女優の川島なお美さんの旦那さんの鎧塚さんが一緒にここで協力をし合っていこうということで計画しています。料理のほうではイタリアンシェフ、中華関係では脇屋友詞さんで、上海料理が得意な方です。それから、フレンチ料理では吉武広樹さんで、この方も有名な方です。もう1人、同じイタリアンで落合務さん、それから、今言いました奥田政行さんで、山形県鶴岡市でも一生懸命やられています。こういう方々が中心になって薬膳料理や、他の料理もされますがこういうのをやろうと計画しています。

それから、この部分が、多気町が今取り組んでおります、先々週マウンテンバイクの大会をやりましたけども、ここに自転車コースを造ったり、アウトドアができるようなことをやったり、こういうエリアをここにつくろうという計画の中身が、この中に配置されています。

それから、この部分では日帰り温泉、特に薬草を使ったお湯を活用していただきます。もちろん、ここでやっております薬草足湯、そして、今、はやりの炭酸泉もそうですけども、こういうのをやっていたらこうと考えています。社長がどう考えてみえるか分かりませんが、私は、「温泉を掘らずにそういうのをやってください。」、「1億円もかけないでもこういうのができるじゃないか。」と、こういうことをお願いしています。

そして、こちらは、特にドッグラン関係をしていただこうと考えています。先々月に広島県の神石高原町、ここはピースウィンズ・ジャパンという、知事もご承知かと思いますが大西健丞さんがやられているところで、私どもも見学に行きまして、ここでは、殺処分をされるような犬などをセラピー犬や災害救助犬などに活用しようという思いで今活動されています。神石高原町の町長さんも来ていただきまして、その牧野さんという町長さんは、ほとんどが老人車を押して歩いている地域だったけど、その部分については今若者がいっぱい来ていると言われま

して、こういうのをやっていただきたいと考えています。

全体として、このような事業をこの中で取り組んでいただく計画です。

それで、今回、知事にぜひ聞いていただいてご協力いただきたいのは、この赤い部分が高速道路、これは伊勢自動車道、こちらが紀勢自動車道で、もう一つ、この紫で描いてあるのが国道 42 号線です。今、この辺におきん茶屋というお店があり、ちょうどこの裏になるんですけど、こちらが多気町の前村地内ですけども、このエリアの中で、ふるさと村の前を通っている県道が走っています。ここから県道を、アクアイグニスの中を走ってこちらの国道 42 号線に抜ける形で今点線で入れています。

三重県と国土交通省と N E X C O が一緒に、ここの部分ができるように、今、検討委員会みたいなのをさせていただいています。それで、この県道バイパスという形でこれをぜひ一緒にお願いをしたいということで、今日は、この部分を入れました。

これから、この中に今言いましたような施設や道の駅をつくったりとか。そして、ここにバイオマスの発電所を造ってここの電気を賄う計画です。

これは、ここに「医食同源 多気の事業計画」となっています。「多気」とはなっていますが、はじめにも言いましたように多気町だけで取り組むような内容でもないし、そしてもちろん、ここで働く人が 100 人や 200 人ではないので、もし複合施設としてここに今、計画の中でいっしょに進めようという大手の商業施設もありますので、こういうのが入ってきますと 1,000 人を超えるような雇用も発生してきます。こうなると、先ほども言いましたように多気町だけではなく中南勢地域の活性化ということになります。これはもう三重県のほうも今、南勢地域の活性化をいわれていますので、そういうことから考えると、多気町への支援というよりも三重県の中南勢地域への支援ということで、ぜひ、今の段階では、この部分のご協力をお願いしたいということと、全体の中でもし拾える事業がありましたら三重県のほうでも拾っていただいてご支援をいただければという思いで、今回、こういうお話をさせていただきました。

よろしく申し上げます。

知 事

ありがとうございます。マウンテンバイクあるいは食、薬草など、今まで多気町が取り組んできたことと整合性のある形で、さらにそれを大きくバージョンアップしていこうという壮大な計画で、大変すばらしいし、関心を強く持ったところであります。

この計画全体のこと、先ほどの道路のこと、また、スマートインターの話もあつたりするようですので、そういうのを含めて、県では企業誘致推進課というところを窓口らせていただいています。そこと道路企画課という道路の担当課が、

多気町さんが行っている勉強会に出席をさせていただいて今お話をいろいろ伺っているところだと思っています。

その点線の道路についても、実際にその施設がどんな形になっていくのか、あるいは今の事業計画の具体化がどのようなスケジュールでどのようなようになっていくのか、そういう部分もあろうかと思しますので、お金がないから絶対に無理というのではなく、事業の具体化とともに道路のことも含めて、県が、どういうご支援ができるのか、どういう役割を果たしていけるのかというのを、多分、土地の造成等もあろうと思しますので、すぐに来年出来上がるということではないと思しますので、よくご相談をさせていただきたいと思っています。

一方で、先ほど町長がおっしゃっていただいたようなこの中南勢地域の活性化あるいは雇用の起爆剤の一つとして、期待の持てる構想だと思っていますので、そういう意味では、勉強会に参加させていただきながら、この事業の具体化の進展と合わせて県がどういうことをできるかというのを具体的にそれぞれ相談させていただければと思っております。

多気町長

来週、同じような計画をされる静岡県の小山町というところが、多気町はどんなことをされているのかということで、おみえになります。ここは地域総合支援特区というのを受けていろんなことをされているんですが、多気町も、今ちょっと言わせてもらったように、拾っていただけるような事業がありましたら、県の中で例えばこの部分の森林整備などに関わるものや、ここのバイオマス関係に関わるものなど拾える部分があったら、何とかいろんな部署のものをお願いしたいと。

今一番思っているのが、この県道バイパスが何とかできないかということで、これを今、多気町で取り組もうとするととてもじゃないけど難しい部分があります。1年2年ではできる話ではありません。はじめにちょっと知事も言われたように、具体的にこの部分をどうするかというのがまだ確定しておりませんので、ただ、今入っております大手ショッピングセンター、そういうところの商業施設についてまとまってきたら、もっと具体的にこういう形でお願いしたいということになるかと思えます。

場所的には紀勢自動車道と伊勢自動車道のちょうど会うところで、今、伊勢市の特に商工会議所の上島会長からも、この辺をパークアンドバスライドで伊勢と結ぼうかというご提案もいただいたりしていますので、ぜひお願いします。今、伊勢神宮のお客さんもちょっと少なくなったみたいですけども、何とかここで止まっていたいで帰っていただく、また、伊勢に行く前にここに寄っていただいて体をきれいにしてもらって行ってもらうとか、そんなことができればと思っています。

知 事

そうですね。町長おっしゃっていただいたように、事業を具体化していく中で、例えば三重県でいうとライフイノベーション総合特区というのになっていて、多気町もそのM i e L I Pという地方拠点の一つになっていただいています。その支援策の第1号として万協製薬株式会社さんが制度を使っていたこともありました。そういう意味で、例えばこういう医食同源の中で、そのライフイノベーション総合特区の支援措置が使えるようなものがあれば、それはぜひ検討したいと思います。また、先ほどあったバイオマスのような林業関係とか、事業の具体化に合わせてまた関係課も増やしなげらぜひやっていきたいと思いますが、企業誘致推進課がしっかり窓口となつていろいろ聞き取りをさせていただきながら、共に進めていきたいと思つております。

特にマウンテンバイクについては、ライフイノベーション総合特区の多気の一つの売りとしてやっていただけていたので、こういうのもなかなか面白いと思います。また、三重県でも、子どもたちの自然体験などに力を入れていこうと今考えていまして、いろんな調査も行つてるところです。それらとも整合性が出てくるでしょうし、それが具体化してきたらまたそういう部分の関係課も入れて、どういふご支援ができるかぜひ検討したいと思つています。

多気町長

ありがとうございます。今、全体的に言いましたけども、中でちょっと面白いのは、ここを東京オリンピックのキャンプ地にできないかと考えています。自転車につきましては、来年、もしかしたら国際大会ができるかもしれません。今年はJ2の公認大会であったんですが、国際大会ができるようになるかもわかりません。そうなれば、これからここへまた来ていただくこととなります。

それで、この地域は佐奈地域、旧多気町の佐奈でして、ここはお医者さんが一昨年まで開業されていたんですが亡くなりまして、今、ここへもそういう医療施設ができないかとこんなことを言つたり、松阪医師会のほうにもそんな投げかけもさせてもらいました。これは、町内の医師会との話にこれからなつてきますが、こんなことも思つています。

あと、この中では薬草畑を考えています。ここにもあるんですけども、向こうは、100haの面積を事業者の方がもう買われていたので、ここへ薬草もできるなと思つています。夢はいっぱい出てくるんですけども、こんなことをこれから具体的に思つています。

知 事

100 ha ですか。

多気町長

100 ha をもう買われました。

あと、ここに挙げていますように、漢方というか薬膳を売りにするので、伊勢のそういう横丁にちなんだ漢方のお土産横丁のようなものを造っていただきたいなど、町のほうも申し上げていますので、何とか事業実施ができるようにと思っています。

これが、町の企業誘致の一つであるんですけども、あともう一つ、工業団地がこの秋、ほぼ完成します。後でまたこれは申し上げますけども、こういう事業所の誘致と企業誘致をこれからまた行いたいので、そういう事業所の照会については今、県の企業誘致推進課のほうもいろいろご協力いただいているんですが、最近景気が良くなったという割にはちょっと今引き合いというか照会が少ないと思いますので、ちょっと気合を入れてまた県のほうにお願いしたいと思います。

知 事

ありがとうございます。企業誘致についても、平成 25 年度にかなり企業誘致件数が伸びました。そのときに今までとちょっとやり方を変えて情報収集するようにしたので、そうすると企業誘致件数も伸びました。そういう意味では今情報の取り方もいろいろ進化させていますので、今町長おっしゃっていただいたように、この多気町に合うような企業の案件なども情報提供させていただければと思います。

今、町長はさらっと脇屋さんとか言っていただきましたけど、あまり三重県では知られてないかもしれませんが、脇屋さんの中華料理はすごい人気ですからね。全国にありますけども、東京ではこの人の中華を食べたいというのでたくさんの方が並んだりしていますしね。とてもすごい人なんですよ。鎧塚さんは今、渋谷のヒカリエで三重県の人たちとコラボして、伊賀市の島ヶ原の女将さんたちと一緒にコラボしてスイーツを作ってくれたり、非常に前向きにいろんなことをやったださる。地域の活性化に思い入れのある方ですから、非常にいいんじゃないかと思っていますので、楽しみにしたいと思います。

多気町長

ありがとうございます。アクアイグニスにつきましてはこんな状況で、ここにみえる奥田政行さんはこの間、皆さんも観られたかも分かりませんが、NHKの「ためしてガッテン」に出てみえまして、おいしい枝豆のゆで方というのを確かやられていまして、僕はおととい枝豆をそういうのでやりました。お塩と、

砂糖をかくし味に入れるんです。そうすると、採れたてに近いような味になります。これはいらんことですけど。

2 子育て支援策について

多気町長

その次に2点目ですけども、多気町で、子ども・子育てのニーズ調査というのを行いまして、その中で一番多かったのが自然派保育園です。自然の中でのびのびできるような保育園をという思いの方が結構多くありまして、それが第1位でありました。その結果とともに私がその前にとにかく自然保育園を造りたいという思いもありましたので、これについては、町ではやらずに民設民営でということをお願いしており、今事業者の方が2、3手を挙げておりまして、先般、14日に、多気町でこういう計画を進めたいということで、県の子ども・家庭局長のほうにお邪魔をさせていただきました。

候補地につきましては、町内勢和地域、多気地域を事業者の方にそれぞれ見ていただいたんですけども、最終的に、「自然派」といわれながら町の真ん中になりました。場所を言いますと、これが佐奈川で、今町が進めていますクリスタルタウンの工業ゾーン、ここに今、企業の第1号の中部プラント、近々立地協定やりますけど、こことその中に日清化成という会社があるんですけど、これだけの工業団地がありまして、ここに竹林があるんです。そして、ここに小さな公園がありまして、場所は、これが国道42号バイパス、これがシャープ株式会社。それで、ここからこう入っていただいて、これはクリスタルタウンの中を通る道ですけども、ここにマックスバリュがあります。その裏にこういう部分、竹やぶの中に自然派保育園の用地を今、町が計画をしております。60人規模ということで、多気町は待機児童というのはありません。ありませんというのは、一部の保育所はもう計画人数を超えているんですが、他の保育所に行ったりしていただいていますので今はないです。こういうところでも県の助成を同じような形をお願いしたいということで、先般、要望をさせていただきました。今、そんな状況です。

子ども・家庭局長の話では、難しい話ではないようなことを言っていただきましたので、ぜひまた知事のほうのお考えもいただきたいと思います。

知事

ありがとうございます。通常の保育所の整備については、国のほうも平成27年度も子育ての保育所の整備の交付金を概算要求されていますので、基本的に現状と同様の制度で交付金が使えらると思っております。通常の支援というのは、その基準に照らしながらですけどしっかりと支援をしたいと思っております。

一方で、今町長がおっしゃっていた自然派の保育、これは、今日はせっかく行政チャンネルも来ていただいているので少し私の思いなども説明させていただきます。

国立青少年教育振興機構の調査によりますと、子どものときに海や川で自然遊びをたくさんした子どもほど、大人になったときに「最後までものごとをやり遂げたい」とか「もっと深くものごとを学んでみたい」とか、そういう生きる力、生きる意欲、そういうものが高いとアンケートなどで答えるという傾向があります。子どもたちがどんな人生を歩んでいくにしても、自分が最後までものごとをやり遂げようという意欲を持って、自己肯定感を持てるような子どもが、三重県からたくさん増えてほしいと思っていますので、私は、こういう自然体験というのは子どものときにしていくということが非常に重要だと思っています。

これは民間の調査ですが、お母さんたちに、「子どもにどういう力を身に付けてほしいですか」と聞いたときに、先ほどの「成し遂げたい」ということも含めて「社会を生き抜く力」というのが高い値にくるんですけど、では、「その力を身に付けさせる自信はありますか」と聞いたら、60%の人が「自信がない」と答えているんです。つまり、お母さんだけでは、そういう子どもが生き抜く力を育てていくということにまだまだ自信がない。やっぱりそのためには、そういう機会が提供されたり、あるいはそういう自然遊びが得意なお父さんが出番として出ていったりということが大事だと思っています。

併せて、今、長野県や鳥取県で「森のようちえん」というのが結構はやっています。野外保育が結構はやっているんですけども、長野県の調査だったと思いますが、そこに来ている保護者の皆さんにアンケートを取ったところ、保護者の皆さんは、子育てに対するストレスが下がった。自分が子どもを「森のようちえん」に通わせているだけで、その子どもの様子を見たり、子どもが家に帰ってきてからの感じを見ても、子育てに対するストレスが下がったという答えも出ています。そういう意味では、「子育ては大変だけど楽しい。」、「子育てを、いろんな方法でみんなに支えられて、乗り切っていこう。」というようなことで、もう子どもはいらぬというんじゃないじゃなくて、また子どもが欲しいと思えるような、子育てのストレスが下がることでお母さんの不安感や孤立感が下がっていくことで、少子化対策などにもつながっていくと思っていますので、この自然派幼稚園や保育園、自然派の保育というのは非常に重要だと思っています。特に来年度はその効果なども調査する、研究する事業も行いたいと思っています。長野県や鳥取県は、独自のその自然派保育に特化した認定基準を作っているんですね。通常の認可、無認可の認証ではなく、「森のようちえん」で特化した、ここは県も認める「森のようちえん」というような、こういうすばらしい教育をしていますというような認定基準を設けたり、独自の補助金を出したりもしていますので、そういった支援策も長野県や鳥取県の例を我々も研究しながら。正に今、多気町さんで検討し

ていただいております。

これも、よかったと思うのは、やっぱりニーズ調査をしていただいた結果、町民の皆さんがそれを望んでいるということが、非常に僕は、町長が決断していただいていたことかなと思っていますので、ぜひ、この点も我々も応援していきたいと思います。

多気町長

ありがとうございます。知事のほうからも応援をしていきたいという声をいただきました。

報道関係の方はちょっと違うと思いますが、座ってみえるほとんどの人が私らと同じで、子どもの頃は山の上へ登ったり、木に登ったり、川へ行って冬でも泳いだりしていたと思うんですけど、今の子はそういうことが全然ない。

そして、もう一つ、民設民営でと言いましたのは、民設民営でどうなるか分かりませんが、公設の場合は、ちょっとケガしたり何かあると結構苦情を言われる、また、言い方は悪いですが、文句を言われることが多々あるような気がするんです。それで、民設でやっていただこうということになりました。そして、はじめに、少々のケガでも文句を言わないような、そんな施設ですよというのをやっぱりつくっていただいて、元気なのびのびとした子どもを多気町で育てていきたいという思いがあり、そこへこういう町民の皆さんから、自然の中で子どもが育つような保育所をとというのがありましたので、ぜひ、今言われたような形で進めていきたいと思っています。

知事

今、菰野町にも「森のようちえん」的な自然派の保育を、これは無認可ですけどやっていただいているところがあって、そこにこの前お邪魔して、先生方から、子どもたちの様子を見ていて、通い始めてきた頃としばらく通ってからと、どういふ変化がありましたかというのを聞いて、僕がひとつ感銘を受けた話は、遊びを考えるようになったことでした。つまり、今は、ゲームとかテレビとか何かこう遊び方も与えられていて、自分で遊び方を考える、周りに遊び道具がなかったら木を持ってきてこうやって引っ付けてやってみるとか、ザリガニ釣るときには枝と糸とちくわを持ってきてやるとか、そういう遊び方を自分で考える、それできっと創造性みたいなのが付いていっているのではないか。街中で都会で与えられた遊びではなく、そういうのが今後きっと子どもたちの人生にも生きてくるんじゃないかというようなことを、子どもたちの様子の変化を見て思うとおっしゃっていたので、多気町にそういう自然派保育が出来てきたら、きっと友達とどうやって遊ぶかということから考えていって子どもたちのそういう創造性も付くのかなと思います。でも、実際、最初は戸惑っていたようです。その幼稚園に来

た子はどうやって遊んでいいかわからないので、最初、ぼうっと立っている子も何人かいたようですが、それでも、段々日を重ねることによって、遊び方を考えるようになったそうで、そんな効果もあると思うので非常にいいと思います。

多気町長

はじめに私が担当に提案したときには、もし応募者がなかったら松阪でも伊勢でも隣の町からでも皆受け入れなさいと言っていたんですが、そのニーズ調査の結果を見ましたら、もう大半が自然派に行きたいということなのでちょっと気になるのは、人選の部分になると思うんですけども公設の保育所のほうは大丈夫かなということ。これからぜひご支援をいただきたいと思います。

それとあと放課後児童クラブ、これにつきまして今、ちょうど3年前、三重県から放課後児童クラブの補助金減額の話があったときに、町も、このままでは放課後児童クラブに対する助成も含めて、子どもたちがなかなか活用してくれないという思いがありましたので、当時、もう1つにしようということで、旧多気町のほうと旧勢和村に1つあったんですがそれを1つにして児童館のほうへ集約しようという計画をしまして、平成24年度から動き出しました。

スタートしたときは、全部合わせて40数名ぐらいでしたので、補助率も一番高率の補助となり、よかったんですけども、その後、勢和地域も一緒になっていただいたりして、人数がどんどん増えまして今は80名を超えてきたんですけど、ところが、国、県の補助金が結局半分ぐらいに減りました。それで、先般子ども・家庭局長さんのほうにそういう話をさせていただきました。県のほうでも、運用の仕方、やり方でと言われましたので、また知事のほうから、ぜひその辺のお考えもお聞かせいただきたいと思います。

知事

そうですね。放課後児童クラブの助成については、特に今、小1の壁ということで、女性活躍や少子化対策の中で国も力を入れてやっていこうというふうになっていますが、では国がどういう形でやるのかというのが見えていません。8月末の概算要求でも、事項要求といって項目だけが上がっていて、どんな事業を行うかというのも入ってなくて、額も330数億円という去年と同額のもので暫定的に置かれているというような状況です。

でも、私たち県としては、国が今後どういうものを出してくるかにもよりますが、基本的には我々もそのいろんな制度を見直すチャンスだと思っていますので、国の制度改正の状況を見て、それを補完できるような形で放課後児童クラブの助成制度のリニューアルを図っていきたいということで、今、内部で検討しているところです。

それで、町長がおっしゃっていただいたことについては、国の国庫補助、運営

費のその放課後児童クラブの補助というのは、36人から45人の子の人数の放課後児童クラブが一番補助金が高くなっていて、それより少ないところは段々少ないし、それより多いところも段々少なくなっていくという、国は、40人ぐらいの放課後児童クラブが一番適正であると考えているので、40人ぐらいのときは補助金がたくさんあったけれども、今のように80人になると半分になってしまったという、そういう仕組みだと思っています。

一方で、僕が、国に小規模な放課後児童クラブへの補助も出してほしいと要望をしたら、国は、そのいくつかを集約したらいいと、多気町さんがやっているようなことを言うわけですね。では、今度は集約したら補助金が減っていくという訳の分からない話なので、国の様子もよく見ながらですけども、あと、先ほどの運用部分でどのような工夫をすれば国庫補助の対象として、満額はいくかどうか分からないにしても、前に近いようなところに国庫補助のレベルをもっていくようなやり方とか、そういうのも個別にご相談をさせていただきたいと思ひますし、制度自体についても、先ほど申し上げたとおり、この年末までに明らかになってくると思ひますが、国の制度改正に合わせて、それをチャンスと考えて、県としても放課後児童クラブの助成制度のあり方をしっかり検討していきたいと思ひています。

多気町長

ありがとうございます。多気町はそういうことで、当時、各小学校区に公民館を改造したのものがあつ、ここでの児童がもう10人を切るところが3校以上あつましたので、このままでは放課後児童クラブとしての活用がうまくいかないという思ひがあつ、放課後児童クラブと併せて子育て支援センターや相談サポート事業もやろうということであつ、児童館を造りました。現在、それが結果的に非常に効果というか、町民の方にも喜んでいただきまして、利用が増えたんですけども逆に補助金が減つてきました。部屋は、活用すれば、作つてあつましたのでできるんですけど、補助金が減つてしまつて、いいと思つてやつたのに国のほうは減らすのかと。今知事が言われたように、40人ぐらいが80人になつて、せっかく活用がうまくできたのに減らされては、これはそれにうまく取り組んだ町が馬鹿をみたような、そんなことにならないように、ぜひまたお願いしたいと思ひます。

知事

そうですね。国もガイドラインや報告書のようなところで、そういうのを決めているところがあるので、実際に、例えば国全体で見ても、36人から45人の放課後児童クラブが一番多いのかということ23%、そして35人以下のところ40.5%が一番多いんです。56人以上も20.9%あるんです。なので、国はそうのように言つても、やっぱり子育て対策や少子化対策は地域の実情がそれぞれあるの

で、国が36人から45人というようにいちいち縛るのではなく、それはもう地域の実情に合わせて地域が考えられるようにしてもらおう。これはもう少子化対策や子育て対策について我々がずっと言い続けていることなんですけども、そういうふうに変えてもらうことも大事だと思います。今1つにしているものを分割したりとか、分割しなくても複数の児童集団に分けて対応すれば何か運用がもらえるとか、そういうのもあるらしいんですが、そうではなくて、そもそも、もちろん補助金が出なかったら意味がないので、ちゃんとそういう部分で国との交渉も我々もしていきたいと思ひますし、併せて、今申し上げたような、国がいちいち人数のところを縛って、放課後児童クラブとは40人ぐらいが適当であるというようなことを国が言うんじゃないかと、そんなことは地域に考えさせてほしいと、地方創生などの少子化対策の流れの中でも我々もしっかりと申し述べていきたいと思ひます。

多気町長

ありがとうございます。ぜひ、そのようにお願いしたいと思ひます。

3 バイオマス資源収集に対する支援について

多気町長

最後にバイオマス資源の収集につきまして。

はじめにちょっと言いましたように、多気町の計画予定では、平成28年度に中部プラントサービス株式会社という、中部電力の関連会社のバイオマス発電所がスタートする予定です。昨年、立地申込みがあったんですけども、正式な立地協定はありませんでしたので、今月末に立地協定を予定しております。これが出来ると、多気町のちょうど倍ぐらいの世帯数の発電を賄うということになります。

それで、これに関しまして、今年8月2日まで町内全域を回りまして、町民の方々に協力をお願いしました。これは、何を言ったかといいますと、竹や雑木が集落の近くまで来ていますので、それからまた道にも覆いかぶさっている木もありますので、そういったところ全体の木や竹を切っていただいて、その木や竹をバイオマス資源に使う。それで、これは地域の方々に軽トラ一杯どんと積んでもらって運んでいただく。こういうシステムづくりをこれからやっていこうということで、49集落の皆さんにお願いをしました。

まだ、細かいところまではいっていないんですけども、それをするによって、作業道具の調達方法や地域での技術講習会など、森林組合の協力もお願いしなければならないと思うんですが、ぜひ、こういった指導や技術支援、また、作業器具の調達支援、こういったことを県のほうからもご支援をいただければあり

がたいと思います。

そのことによって、材料の供給もそうなんですが、獣害対策にもつながると考えています。というのは、里山のほうへ来ている木や竹を切ることによって、山を奥へ奥へと送り込むことができるので、それを考えるとそういうことにもつながる。こういう思いでありますので、ぜひ、ご支援とご協力をお願いしたいと思います。

知 事

ありがとうございます。今回、この11月に松阪市で本県として初の木質バイオマス発電所が出来ますし、平成28年夏には多気町で中部プラントサービス株式会社、あと、津市で株式会社グリーンエナジー津が稼働するというようなことで、民間主導でそういう形で立地してもらったのにチップが供給できなければ話になりませんので、正に燃料となる木質チップをいかに安定的に供給するかというのが非常に大きな課題です。

一方で、例えばこういう木質バイオマス発電が出来るということで、今まで未利用だった間伐材などを、例えばウッドピアで1トン当たり7,500円で引き取ってくれるわけですが、そういう意味では、原木価格がずっと低迷してきた中でそういう価格の下支えになる仕組みが出来てきたということは本当にありがたいですし、今後、林業の活性化にもつながっていくと思っています。

県としても、こういうバイオマスのチャンスがあったこと、それから、今年度から「みえ森と緑の県民税」もやらせていただいているということ、あとは、津市のほうでこの前「WOOD JOB!」という映画があったようなこと、あとは、そもそも長い期間かかるものであるということもあって、来年度については、林業の活性化を特に注力する課題として取り組んでいこうと考えております。

そんな中で、今町長から、個人のグループの皆さんにその燃料となるものを集めてきてもらってそれを燃料に換えていくというご提案がありました。これは、大変すばらしい提案だと思っていますし、我々としても、本当に原木をチップにするというだけではなく、例えば枝葉や海岸に漂着した流木、例えば川でみんなでゴミを拾ってそこで出てきた木とか、そういうものも一定燃料に使えないかというようなガイドラインみたいなものをつくらうと思っていますので、それが出来てくれば、特にそういう市民グループの皆さんや地域の個人の方々にも、燃料供給のお手伝いをしてもらえと思うんです。なので、そういうこともやっていきたいと思っています。

今、全国で20箇所ありますけど、「木の駅プロジェクト」という形で、そういう個人のグループなどが間伐材の搬出をしたり、あるいは、林業みたいな形にコミットして行って地域全体を元気にしようというような取組もあります。県内でも伊賀市や大台町で徐々に広がっていますが、そういうのも地域の活性化につ

ながっていますので、今町長からご提案があったようなやり方というのは、そういう地域の活性化にもつながっていくと思います。

ですので、先ほどの資機材の使い方や技術的な講習そのようなところで、しっかり供給量が増大していくような形での支援を県としてもしっかりしていきたいと思っております。名張市や津市のように「みえ森と緑の県民税」の市町交付金事業を使っていただいて、そういう木質バイオマスの搬出支援を行っていただいているケースもあります。県の支援だけで足りない場合は、多気町のその「みえ森と緑の県民税」の市町交付金の中で使っていただくというのも一つの方法だと思います。

多気町長

ありがとうございます。多気町では、各集落でどれほどやっていただけるかというのはまだ把握はしていないんです。一応、懇談会の中で町民の皆さんに町としてはこんなことを考えていると投げかけをさせていただきました。例えば、軽トラ一杯そこへ運んでいったら1,000円になるのか2,000円になるのかなど。これは、一つの目的は、我々団塊の世代が退職をして農業をやる人はいるんですが、非農家の方などは「俺、ひまだな」ということで取り組もうかとなる。こうすることによって町はきれいになると。今知事が言われたように倒れた木などを持ってくるのもOKといった、産廃にならないような形でそういう搬出ができるように、こういうのはやはり県のほうで取組をしていただかないと、町ではできません。それは産廃ではないかと言われるとなかなか前に向いていきませんので、「これはバイオマスの材料です。」と、町をきれいにするために、そういう木や竹は全部そこへ持って行って燃料に換える。こういうシステムが出来れば本当に三重県全体がきれいになると思います。

それで、各集落で話をしていましたのは、多気町だけではなく他の地域でも取れるように、誰が切りに行ってもいいように、誰が拾いに行ってもいいようにと、こういうことをやろうかということで、担当には、もうちょっと時間をかけて来年の半ばまでにはそういうシステムがきちっと出来るように、今そんな話をさせていただいています。

知事

いろんな再生可能エネルギーというのがある中で、この木質バイオマスが一番雇用を生むものだと思います。要は人手が一番かかるので。太陽光はパネルで太陽の光を受けて、風力は風で羽根を回してですけど、この木質バイオマスは、それを集めてきたりそれを燃料に換えたり、それをまた燃料として供給したりということで、人手がかかるので雇用も生むというものであると思いますし、そういう地域の力を発揮しやすいエネルギーだと思っていますので、多気町さんでそう

いう新しい形をやっていただけるとありがたいと思いますし、我々も、先ほど申し上げたガイドラインや技術講習会なども含めてしっかり支援をしていけるように努力をしていきたいと思っています。

多気町長

先ほどもちょっと申し上げましたけども、集めた材料でバイオマスの資源になるのはごく一部、1%にいくかいかないかでほとんどは松阪市の施設からいただくことになるんですけど、最終的には、今言われた雇用の開発とそれから獣害対策につながると考えていますので、ぜひまたご支援いただきたいと思います。ありがとうございます。

(3) 閉会のあいさつ

知 事

久保町長、今日はどうもありがとうございました。

最初のアクアイグニスの非常に壮大な、わくわくするような計画に始まり、そして、あとは自然派保育園という町民の皆さんのニーズに合った新しいプラン、そしてまた木質バイオマスで町の活性化、雇用を支えていこうと、いずれも前向きな久保町長らしい元気な提案をいただきました。その中で、基本は町あるいは民間の力で頑張れるところは頑張るので、こういう部分だけちょっと県にお手伝いしてほしいというご提案をいただいたとっております。多気町が前に向かって進んでいくためのご支援だと思っておりますので、これからもまた具体的に協議をさせていただいて前に向かって進んでいけるように頑張っていきたいと思っています。

今日は、どうもありがとうございました。